

# ラモンターニユ

## まだまだインフルエンザにご注意を！！

先月から足立区ではインフルエンザが猛威を振るっています。今年の特徴はA型もB型も同時期に同じくらい流行しているということです。予防接種のワクチンが不足していたことも影響しているのか、早い時期からの大流行となりました。

今回はインフルエンザの特徴と治療薬についてまとめてみます。

### ●インフルエンザの特徴

いちばんの特徴としては高熱です。ただし、高熱にならずに済む場合もあります。また、関節痛や体のだるさがあらわれることが多いです。これらの症状が比較的急速にあらわれるのが特徴です。

### ●インフルエンザの治療薬

インフルエンザの治療として薬局から出る主なおくすりは現在、吸入薬のイナビル、リレンザと内服薬のタミフルの3種類があります。



#### ①イナビル



粉末を吸入することでインフルエンザウイルスの増殖を抑えるおくすり。なんと1回2or4吸入するだけで治療が終わってしまうというスゴいおくすりです。

#### ②リレンザ



こちらも粉末吸入薬です。リレンザとは違いプリスターを吸入器にセットして1日2回2吸入を5日間つづけます。手技がやや複雑なため、最近ではあまり使われなくなってきました。

#### ③タミフル



内服薬です。1日2回5日間つづけます。大人はカプセル、子どもはドライシロップ(粉薬)があります。吸入がまだうまくできない年齢のお子様や高齢者によく使われます。ただし、10歳以上の小児では異常行動の副作用報告があったため、原則禁忌となっています。

治療が1回きりで終わるというメリットから吸入さえうまく出来るような年齢に達していればイナビルが便利ですかね。実際にヤマダ薬局西新井大師支店の近くのせきクリニックさんからよく処方されています。ウイルスが増殖しきってしまう前に病院に受診し、早めの治療を心がけましょう。

### あなたも薬剤師になれるかも！？

## チャレンジ☆薬剤師国家試験

(平成29年度 第102回 - 一般理論問題 - 問186)

インフルエンザの病態、診断及び治療に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 インフルエンザウイルスは、A、B、Cの3つの型に分類され、いずれもヒトに感染して典型的なインフルエンザ症状を発症させる。
- 2 インフルエンザによる死亡率が最も高い年代は、15歳以下の子供である。
- 3 迅速診断には、鼻腔・咽頭拭い液を用いた酵素免疫測定法が用いられる。
- 4 インフルエンザを発症した小児の解熱には、アセトアミノフェン(カロナール)は推奨されない。
- 5 慢性呼吸器疾患などのハイリスク患者にはオセルタミビル(タミフル)の予防内服が認められている。

- 1 C型は軽症候群のような軽い上気道炎を起こす程度の症状しかみられない。 → ×
- 2 インフルエンザによる死亡率が最も高い年代は、抵抗力のない65歳以上の高齢者である。 → ×
- 3 ○
- 4 インフルエンザを発症した小児の解熱には、アセトアミノフェンが推奨される。なお通常解熱に用いられるNSAIDsは、インフルエンザ感染時の小児に使用するリスクを候群を引き起こすことがあるため用いない。 → ×
- 5 ○ インフルエンザ感染症を発症している患者の家族または共同生活者である高齢者、慢性呼吸器疾患患者、慢性心疾患患者、糖尿病などの代謝性疾患患者、腎機能障害患者に対してはオセルタミビルやザナミビル、ラニナミビルなどのニューミニターセ阻害薬の予防投与が認められる。 → ×